
二刀の契能者

わこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二刀の契能者

【Zコード】

Z9298Y

【作者名】

わこ

【あらすじ】

少女は代価を払つて戦う力を手にいれた。どうしても護りたいものがあつたからそのために終わりの見えない戦いをすることに・・・よくある設定のバトルもの（になる予定です）はじめて書いたのでかなり拙いものなので生暖かい目で読んでいただければ幸いです。完結目指してがんばります

はじめ

「わたし」はこの「場所」で生まれた。しかしここは生まれた場所であるだけ
わたしは帰りたいと強く願う「場所」がある。その「願い」だけで今まで生きてこれた
なぜ帰りたいかはわからない。だがここはわたしが「生きていく場所」ではないと強く感じる
いつ帰れるかはわからない。だがいつかは「帰れる」ことを信じて……生きるため戦いつづける

16歳ぐらいの背中まで届く少し茶色がかつた髪をポニーテールした少女ー初理は期待と不安をだきながら走っていた。もしかしたら間に合つかもしれない。ちらりと横をみれば10歳くらいの黒髪をツインテールした少女ーここらは頷いて言った
「ちゃんと生きてるよ。それと肝心なもの忘れてる」
こここらは初理に刀のつばを投げ、初理は危なげなくキャッチした。
そこで自分がなにも持っていないのに気がついた
「ごめん。嬉すぎて預けていたのを忘れてた」
「たつくしっかりしなさいよ。それがなければ戦うこと出来ない

んだよ」

「うん。今度こそ絶対に助けるから」

初理が左右のての平でぎゅっとつばをにぎると1メートル30センチくらいの刀が出現した。ここいらはやれやれという風に肩をすくめるとすっと前方を指した

「そろそろカントに入るよ。……5、4、3、2、1、ゼロ」

とここいらが叫ぶと同時に異形な姿をしたものが突如2人の目の前に現れた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9298y/>

二刀の契能者

2011年11月27日21時52分発行